

極秘

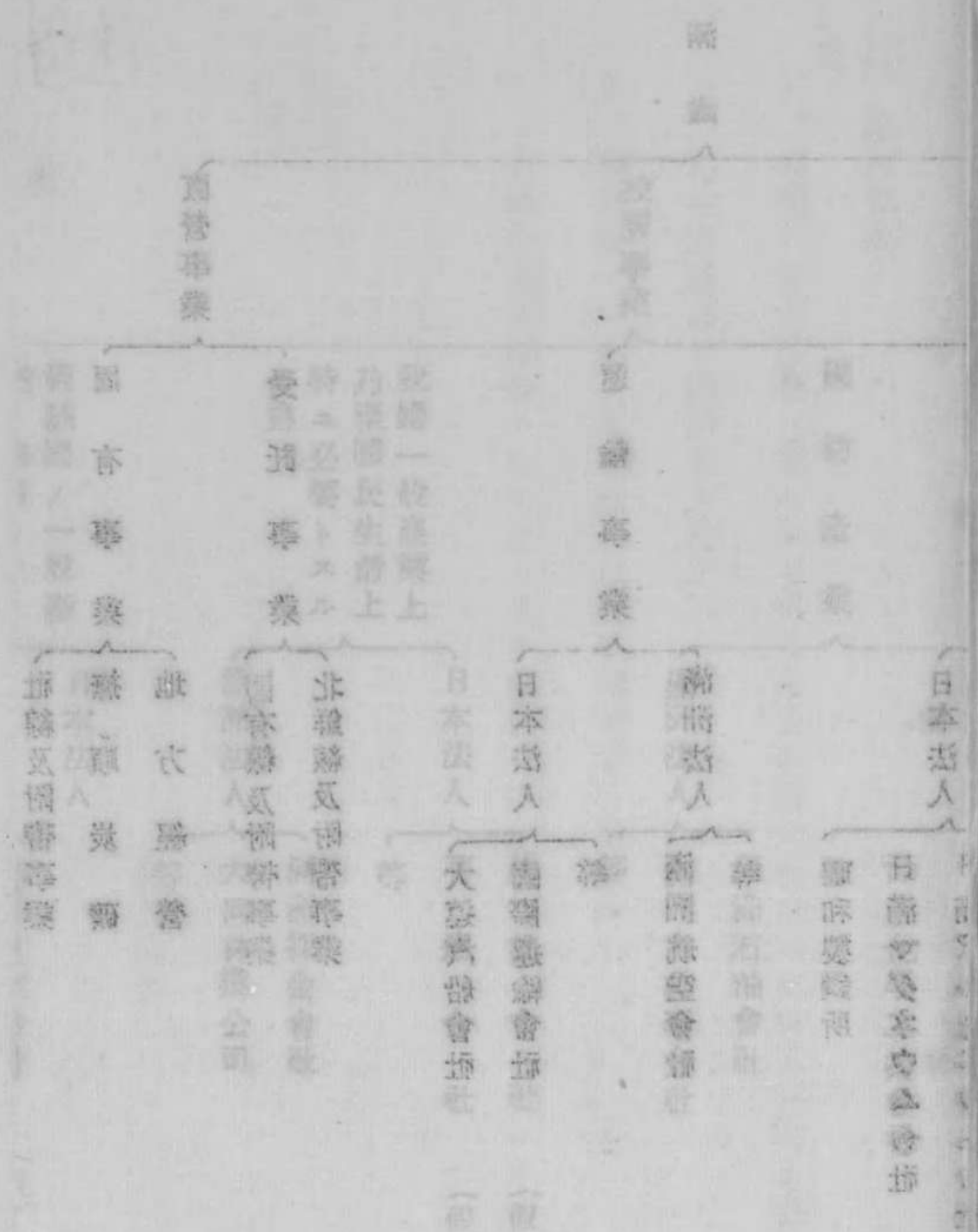
昭和八年十月三十日

南滿洲鐵道株式會社ノ納付金ニ關スル件

特秘扱(三十五部ノ内第18號)

拓務省殖産局交通課

八、一、六、一



南滿洲鐵道株式會社ノ納付金ニ關スル件

一、納付金ニ關スル根據

納付金ニ關スル根據ハ (イ)委託經營勸定利益金ヲ以テ支辨スル納付金及 (ロ)委託經營ニ因ル滿鐵固有勸定利益金ヲ以テ支辨スル納付金 ノ二者ニ區別シ得ベシ

イ、委託經營勸定利益金ヲ以テ支辨スル納付金

日本國政府ノ納付金受入(之ヲ反面ヨリ見レバ滿洲國政府ノ日本軍ニ於テ負擔スル國防並ニ治安維持ノ費用ノ一部ノ負擔)ニ關スル根據ハ昭和七年八月七日附關東軍司令官ト滿洲國國務總理トノ間ニ締結セラレタル協約(以下單ニ協約ト稱ス)第七條、滿鐵ガ滿洲國ノ委任ニ依リ委託經營勸定利益金中ヨリ日本國政府ニ納付金ヲ納入スル根據ハ昭和七年四月十九日關東軍司令官ト

滿鐵總裁トノ間ニ締結セラレタル協定（以下單ニ協定ト稱ス）第十條ニ在リ
四、委託經營ニ因ル滿鐵固有勸定利益金ヲ以テ支辨スル納付金
本納付金ニ付テモ日本國政府ノ納付金受入及滿鐵ノ納付金納入ノ根據ハ協定
第十條ニ在ルコト勿論ナルモ株主關係、會社信用保持ノ必要竝ニ必ズシモ秘
密ニ附スルノ要ナキコト等ノ關係ニ鑑ミ其ノ實施ニ當リテハ之ガ根據ヲ示
ス勅令ヲ新ニ制定スルヲ可トス

說 明

イ、日本國ハ關東軍司令官及滿洲國國務總理ヲ當事者トスル日滿兩國間ノ國
際協定ト認ムベキ上揚協約ニ基キ關東軍司令官ノ名義ニ於テ滿洲國政府ノ
鐵道等ノ受託管理權及之ニ附隨スル權利ヲ取得セル次第ナルガ日本國ニ於
テ右鐵道等ノ管理ニ依リ生ズルコトアルベキ利益金中ヨリ駐滿日本軍ノ費

用ノ一部ヲ受入ルルノ權利ハ右協約第七條ノ規定ニ其ノ根據ヲ有スルモノ
ナリ惟フニ日滿協定書ニ基キ日本軍ガ滿洲國ノ國防及治安維持ニ協力スル
以上其ノ費用ノ一部ヲ滿洲國ニ於テ負擔スルハ當然ニシテ協約第七條ハ此
ノ理由ニ基キ右ノ費用負擔ノ具體的方法ヲ定メタルモノト認メラル
關東軍司令官ハ上述協約ニ基ク滿洲國鐵道等ノ受託管理權者タル資格ニ於
テ昭和七年四月十九日滿鐵トノ間ニ協定ヲ締結シ右鐵道等ノ經營ヲ滿鐵ニ
委託スルニ當リ右協定第十條ニ於テ滿鐵ニ對シ日本國政府ニ納付金ヲ爲ス
ベキ義務ヲ課シタリ右ハ前述協約ニ依リ滿洲國ノ負擔義務ニ屬シタル納付
金ノ支拂方ヲ鐵道等ノ經營ノ委任ト同時ニ滿鐵ニ委任シタルモノト解ス
ルヲ正當トスベシ即チ滿鐵ノ日本國政府ニ對スル納付金支拂ノ義務ハ自己
固有ノ債務辨濟義務ニ非ズシテ委託者タル滿洲國ノ爲ニスル辨濟義務ニ屬

四、協定第十條（同條ニ關スル協定第一條參照）ハ委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ト委託經營ニ因ル滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金トヲ同時ニ規定セルモノナリ然レドモ滿鐵固有勘定利益金ヲ以テスル納付金ハ滿鐵收支計算書ニ計上セラレザルヲ得ザルモノナル關係上結局其ノ公表ヲ避ケ得ズ而モ他面委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ト異リ必ズシモ秘密ヲ保ツノ要ナキコト竝ニ本納付金ハ委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ト異リ直接ニ株主ノ重大ナル利害ニ關スル事項ニシテ斯ル事項ニ付テハ其ノ合理的基礎ヲ明示シテ之ヲ公表スルコト寧ロ會社ノ信用ヲ保持スル上ニ於テ必要ナリト認メラルルコト等ノ事情ニ鑑ミ本納付金收納ノ實施ニ當リテハ之ガ根據ヲ示ス勅令ヲ新ニ制定公布スルコトヲ

適當ト認ムルナリ

二、納付金額決定標準

納付金額決定標準ニ關シテハ委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ト滿鐵

固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金トニ區別シ左記ニ依ルモノトス

イ、滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金

1、滿鐵ハ每營業年度純益額ヨリ左ノ金額ヲ控除シタル殘額ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スルモノトス

a、政府拂込株金額ニ對シ年四分四厘三毛（昭和八年七月十五日迄ノ分ニ付テハ四分三厘）ニ相當スル金額及政府以外株主拂込金額ニ對シ年六分ニ相當スル金額

b、最低法定積立金

2、純益額ヨリ前項ノ納付金額並ニ前項a及bノ金額ヲ控除シタル殘額ガ政

府以外株主ノ拂込金額ニ對シ年二分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超過スルトキ

ハ其ノ超過額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ滿鐵ヨリ政府ニ納付スルモノト

ス

3、納付金ハ課税上之ヲ經費ト看做スモノトス

ロ、委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金

本納付金額ハ當該年度毎ニ協定第十條ニ基ク納付金額算出ノ方法ニ依リ之ヲ

算出スルモノトス

説明

納付金額ハ協定第十條ニ關スル協定第一條ノ規定スル標準ニ基キ當該年度毎

ニ關東軍司令官及滿鐵總裁間ニ於テ協議決定スルコトトシ差當リ第一年度（昭和七年度）零、第二年度（昭和八年度）七〇〇萬圓ト決定セリ右ハ協定第

十條ニ關スル協定第一條第一項前段ノ規定スル納付金即チ滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スルモノト後段ノ規定スル納付金即チ滿鐵固有勘定利益金ヲ以

テ支辨スルモノトヲ合併シテ定メラレタル金額ナルモ兩者ハ之ヲ別個ニ取扱フヲ可トスルコト一、ニ於テ説明シタル所ノ如クナルヲ以テ其ノ金額及之ガ

決定標準モ亦別個ニ定メ兩者間ニ彼此混同ナカラシムルヲ適當ト認ムイ、協定第十條ニ關スル協定第一條後段ハ滿鐵ガ鐵道港灣河川ノ委託經營ヲ

受ケタルコトニ因リ利得シタリト認ムベキ滿鐵固有勘定利益金ハ納付金支辨財源タルベキ旨ヲ規定シ第二條ハ納入金額ハ當該年度毎ニ關東軍司令官

滿鐵總裁間ニ於テ協議ノ上決定スル旨ヲ規定セリ然レドモ滿鐵ノ利得中委

託經營ト因果關係ヲ有スルモノト然ラザルモノトヲ區別シテ明確ナル納付
金額決定ノ基準ヲ決定スルコトハ事實上頗ル困難ナリ假ニ或程度迄可能ナ
リトスルモ具體的ニ納付金額ヲ定ムルニ當リテハ單ニ右基準ノミニ依ルハ
不充分ニシテ之ト同時ニ滿鐵ノ信用ニ及ボスベキ影響ヲモ併セテ考慮スル
ノ要アリ蓋シ滿鐵ハ資本會社タルト同時ニ滿洲經營ノ爲今後尙巨額ノ資金
ヲ調達スベキ重責ヲ有スルモノナルガ故ニ或程度ニ於テ同社ノ信用ヲ確保
スルコトハ此ノ重責ヲ果サシムル爲必要ナリト認メラル他面又右信用確保
ニシテ充分考慮セラルルニ於テハ駐滿日本軍ノ費用ノ一部ヲ支辨スルノ財
源ヲ滿鐵ニ求ムルニ獨リ委託經營ニ依リ利得シタリト認ムベキ利益金ノミ
ニ限ラズ他ノ利益金ヲモ併セテ考慮スルコト必ズシモ原協定ノ根本精神ニ
悖ルト謂フヲ得ザルモノアリト認メラル

惟フニ滿鐵ハ一ノ資本會社タルト共ニ亦國家的機關トシテ國家ノ特別ノ保
護ノ下ニ其ノ事業ヲ經營シツツアルモノナル處殊ニ滿洲事變發生以來其ノ
資本會社タル規模一層大トナレルト共ニ其ノ國家ニ對シテ負フ處ノ特別ノ
保護モ亦其ノ全事業ニ亘リ特ニ莫大ナルモノトナレリ從テ滿鐵ハ一方ニ於
テハ其ノ資本會社タル機能ヲ圓滑ニ發揮スルノ要アルト共ニ他方ニ於テハ
國家ノ特別ノ保護ニ對シ相當ノ負擔ニ任ズベキコトモ亦事變後益々顯著ト
ナレルモノニシテ此ノ見地ヨリスルトキハ滿鐵會社利益金ノ處分ニ當リテ
ハ資金ノ提供者タル株主ノ利益ヲ相當ニ顧慮スルト共ニ莫大ナル特別保護
ノ附與者タル國家ノ利益ヲモ充分ニ考慮シテ之ヲ決スルコトヲ正當トスベ
シ

本案ハ此ノ見地ニ基キ作製セラレタルモノニシテ政府以外株主配當相當額、

納付金控除率等ノ決定ハ孰レモ敍上ノ考慮ニ基クモノナリ

四、委託經營勸定利益金ヲ以テ支辨スル納付金額ハ當該年度毎ニ協定第十條

ニ基ク納付金額算出ノ方法ニ依リ之ヲ算出スルヲ適當ト認ム即チ本納付金

額ハ委託經營ニ因ル總收入ヨリ左記ノ順序ニ依リ控除シテ之ヲ算出スルモ

ノトス

記

昭和八年度分

昭和九年度以降

- 1、營業費
- 2、新借款利子
- 3、委託經營收得金
- 4、既定納付金

- 1、營業費
- 2、新借款利子
- 3、前年度納付金
- 43、舊借款利子ノ約半額
- 44、委託經營收得金

三、納付金歳入ノ所管

納付金歳入ノ所管ハ左ノ通りトスルヲ理論上正當トス但シ區分處理ヲ不便トス

ルニ於テハ總テ大藏省所管トスルヲ妨ゲズ

イ、滿鐵固有勸定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ハ拓務省所管

ロ、委託經營勸定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ハ陸軍省所管

說明

滿鐵固有勸定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ハ其ノ根據ヲ勅令ニ置キベキガ故

- 85、納付金増額部分
- 76、舊借款利子ノ殘額
- 87、元金
- 98、過剩利金

備考委託經營收得金及旧借款利子支拂ハ前年度納付金額ヲ低下セザルコトヲ條件トス

ニ主務省タル拓務省ノ所管トスベク委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付
金ハ其ノ根據ヲ關東軍司令官ト滿洲國國務總理トノ協約ニ據クト解スベキガ
故ニ陸軍省所管トスルヲ理論的ト認ムルモ區分處理ヲ不便トスルニ於テハ一
括シテ大藏省ノ所管ニ屬セシムルヲ可トスベシ

三、納付年度

納付金ハ滿鐵當該年度決算（固有勘定及委託經營勘定共）確定ノ日ノ屬スル年
度ニ納付スルモノトス

說明

納付金額ハ一定ノ標準ノ下ニ決算ニ依リ定マルモノナルヲ以テ之ヲ決算確定
ノ日ノ屬スル年度ニ納付セシムルヲ可トス

極秘

昭和八年九月十五日

八、一〇、二五、

南滿洲鐵道株式會社ノ納付金ニ關スル件

特秘 扱（三十部ノ内第 11 號）

拓務省殖産局交通課

號)

南滿洲鐵道株式會社ノ納付金ニ關スル件

交通課案 八 九 一 五

一、納付金ニ關スル根據法規

納付金ニ關スル根據法規ニ付テハ (イ)委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金
及 (ロ)委託經營ニ因ル滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金 ノ二者ニ區別
シテ考慮スルノ要アリ

イ、委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金

日本國政府ノ納付金受入(同時ニ滿洲國側ヨリ之ヲ見レバ日本軍ニ於テ擔任ス
ル國防竝ニ治安維持ノ費用ノ一部ノ負擔)ニ關スル根據法規ハ昭和七年八月七
日附關東軍司令官ト滿洲國國務總理トノ間ニ締結セラレタル「滿洲國政府ノ鐵
道港灣水路航空路等ノ管理竝ニ線路ノ敷設管理ニ關スル協約」第七條ニシテ滿
鐵ガ滿洲國ノ委任ニ依リ委託經營勘定利益金中ヨリ日本國政府ニ納付金ヲ爲ス

根據ハ昭和七年四月十九日關東軍司令官ト滿鐵總裁トノ間ニ締結セラレタル「
鐵道港灣河川ノ委託經營竝ニ新設等ニ關スル協定」第十條ナリト解スルヲ正當
トス

四、委託經營ニ因ル滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金

委託經營ニ因ル滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ニ付日本國政府ノ納
付金受入及滿鐵ノ納付義務ノ根據トシテハ新ニ勅令ヲ制定スルヲ可トス

說明

イ、昭和七年八月七日附關東軍司令官滿洲國國務總理間協約（以下單ニ協約
ト稱ス）ハ滿洲國政府ノ鐵道港灣水路航空路等ノ管理竝ニ線路ノ敷設管理
ヲ同國政府ヨリ關東軍司令官ニ委託スルコト及之ニ關聯スル事項ヲ規定セ
ルモノニシテ日本國ハ右協約ニ基キ關東軍司令官ノ名義ニ於テ滿洲國政府

ノ鐵道等ノ委託管理權及之ニ附隨スル權利ヲ取得セルモノニシテ從テ委託經
營勘定利益金中ヨリ駐滿日本軍ノ費用ノ一部ヲ日本國ニ於テ受入ルルノ權利
ハ右協約第七條ノ規定ニ基キ滿洲國ニ對シ取得シタルモノト解スベシ蓋シ日
滿議定書ニ基キ日本軍ガ滿洲國ノ國防及治安維持ニ協力スルモノナル以上其
ノ費用ノ一部ヲ滿洲國ニ於テ負擔スルハ當然ニシテ協約第七條ハ右ノ理由ニ
基キ費用負擔ノ具體的方法ヲ定メタルモノト認ムルヲ相當トスレバナリ而モ
右協約ハ日滿議定書ノ附屬文書ナルヲ以テ日本側當事者ハ通常ノ國際條約ト
異リ關東軍司令官ナルモ國際協定ノ性質ヲ有スルモノト解スベク從テ右納付
金ニ關スル日本國ノ權利ハ國際協定ニ基クモノト認メラル尤モ關東軍司令官
ハ別ニ昭和七年四月十九日滿鐵トノ間ニ協定（以下單ニ協定ト稱ス）ヲ締結
シ其ノ第十條ニ於テ滿鐵ニ對シ日本國政府ニ右納付金ヲ爲スベキ義務ヲ課シ

タルモ右ハ上述協約ニ基キ（協約ト協定トノ日附ニ關シ矛盾アルモ此ノ點ハ協約ハ昭和七年三月十日附關東軍司令官ト滿洲國執政トノ間ノ交換文書ヲ其ノ前身トスルモノナリト認ムルコトニ依リ解決シ得ベシ）滿洲國鐵道等ノ受託管理權者トナレル關東軍司令官ガ其ノ資格ニ於テ滿鐵トノ間ニ委託經營契約ヲ締結スルニ當リ上述協約ニ依リ滿洲國ノ負擔義務ニ屬シタル納付金ノ支拂方ヲ滿鐵ニ委任シタルモノニ他ナラズ即チ滿鐵ガ日本國政府ニ納付金ヲ支拂フハ委託者タル滿洲國ニ代リテ之ヲ爲スモノニシテ所謂債務ノ第三者ニ依ル辨濟ニ他ナラズ換言スレバ滿鐵ノ納付義務ハ自己固有ノ債務辨濟義務ニ非ズシテ滿洲國ノ爲ニスル辨濟義務ニ屬シ本來滿洲國ニ歸屬スベキ利益金ノ處分ニ關スル事項ナルガ故ニ滿鐵ノ納付義務ハ滿鐵ト滿洲國トノ間ニ於ケル委託經營契約（前述協定）ニ基クモノナリト解スルヲ以テ足ルモノト認メラル

四、上述協定第十條ニ關スル協定第一條ハ滿鐵ノ納付金中委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スルモノト委託經營ニ因ル滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スルモノトヲ同列ニ規定セリ然レドモ右協定ニ於ケル關東軍司令官及滿鐵總裁ノ資格ハ兩種ノ納付金ニ依リ同一ニ非ズ即チ委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ニ付テハ關東軍司令官ハ滿洲國鐵道等ノ委託管理者タル資格ニ於テ滿鐵總裁ハ其ノ受託者タル資格ニ於テ協定ヲ締結セルモノニシテ本來滿洲國ニ屬スベキ利益金ノ處分方法ノ一トシテ納付金ヲ爲スベキコトノ約束ヲ爲セルモノナルモ滿鐵固有勘定利益金ヲ以テスル納付金ニ付テハ右ト同様ノ資格ニ於テ協定ヲ締結シタルモノニ非ズシテ便宜右委託經營契約中ニ之ヲ包含セシメタルモノト解セラル然レ共本納付金ハ委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ト異リ直接ニ株主ノ重大ナル利害ニ關スルガ故ニ會社理事者ノ專斷

ニテ處理スルハ穩當ナラザルノミナラズ政府トシテモ會社ニ對シ特殊ノ重大ナル負擔ヲ課スルモノナルヲ以テ勅令ノ形式ニ依リ本納付金納付ノ義務ヲ課スルヲ妥當トス尙右納付金ハ滿鐵收支計算書ニ計上セラレ結局其ノ公表ヲ避ケ得ザルコト及委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ト異リ秘密ヲ保ツノ要ナキコト竝ニ此ノ種株主ノ重大ナル利害ニ關スル事項ハ寧ろ合理的基礎ヲ示シテ之ヲ公表スル方却テ會社ノ信用ヲ保持スル上ニ於テ必要ト認メラルルコト等ニ鑑ミルモ右方法ノ正當ナルヲ認メ得ベシ

二、納付金額決定標準

納付金額決定標準ニ關シテハ委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ト滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金トニ區別シ左記ニ依ルモノトス

イ、滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金

(第一案)

滿鐵ハ每營業年度委託經營ニ因リ利得シタリト認ムベキ純益額ノ二分ノ一二相當スル金額ヲ政府ニ納付スルモノトス

(第二案)

1、滿鐵ハ每營業年度純益額ヨリ左ノ金額ヲ控除シタル殘額ノ三分ノ一二相當スル金額ヲ政府ニ納付スルモノトス

a、政府拂込株金額ニ對シ年四分四厘三毛(本年七月十五日迄ノ分ニ付

テハ四分三厘ニ相當スル金額及政府以外株主拂込金額ニ對シ年六分ニ相當スル金額

b、最低法定積立金

2、純益額ヨリ前項ノ納付金額並ニ前項a及bノ金額ヲ控除シタル殘額ガ政府以外株主ノ拂込金額ニ對シ年二分ノ割合ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ滿鐵ヨリ政府ニ納付スルモノトス

3、納付金ハ課税上之ヲ經費ト看做スモノトス

四、委託經營勸定利益金ヲ以テ支辨スル納付金

本納付金額ハ滿鐵日本軍費用中幾何ヲ滿洲國ニ於テ負擔スルヲ相當トスルヤ

ノ見地ニ基キ毎年度決定セラレタル金額ヲ限度トシ毎年度ニ於ケル納付金額ハ協定第十條ニ基ク納付金額算出ノ方法ニ準ジ之ヲ算出スルモノトス

說明

納付金額ハ協定第十條ニ關スル協定第一條ノ規定スル標準ニ基キ當該年度毎ニ關東軍司令官及滿鐵總裁間ニ於テ協議決定スルコトトシ差當リ第一年度（昭和七年度）零、第二年度（昭和八年度）七〇〇萬圓ト決定セリ右ハ性質ノ異ル納付金ヲ合併シテ定メラレタル金額ナルモ協定第十條ニ關スル協定第一條第一項前段ノ規定スル納付金即チ委託經營勸定利益金ヲ以テ支辨スルモノト後段ノ規定スル納付金即チ滿鐵固有勸定利益金ヲ以テ支辨スルモノトハ全然其ノ性質ヲ異ニスルコト一、ニ於テ説明シタル所ノ如クナルヲ以テ其ノ金

額及之ガ決定標準モ亦別個ニ定ムベク兩者間ニ彼此混同ナカラシムルヲ適當ト認ム

イ、納付金ニ關スル協定第一條ハ滿鐵ガ鐵道港灣河川ノ委託經營ヲ受ケタルコトニ因リ利得シタリト認ムベキ利益金ハ納付金支辨財源タルベキ旨ヲ規定セリ滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金額決定標準ニ關スル第一案ハ協定ノ文理解釋ニ最モ忠實ナルノ特長ヲ有スルモ滿鐵ノ利得中委託經營ト因果關係ヲ有スルモノト然ラザルモノトヲ區別シテ明確ナル納付金額決定標準ヲ定ムルコト事實上至難ナルノ缺點ヲ有ス假ニ可能ナリトスルモ委託經營ニ依リ利得シタリヤ否ヤノ標準ノミヲ以テ唯一ノ納付金額決定標準ト爲スコトハ必ズシモ最善ノ方策ト稱スルコトヲ得ズ蓋シ滿鐵ハ資本會社タルト同時ニ滿洲經營ノ爲巨額ノ資金調達ノ重責ヲ有スルヲ以テ或程度

ニ於テ同社ノ信用ヲ確保スルノ要アルベク從テ右納付金額ノ決定ニ當リテハ此ノ點ニ付充分ノ考慮ヲ拂フヲ要スレバナリ加之駐滿日本軍ノ費用ノ一部ヲ滿鐵ニモ亦負擔セシムルコトニシテ正當ナリトセバ之ヲ支辨スルノ財源ヲ委託經營ニ依リ利得シタリト認ムベキ利益金ニ限り他ノ利益金ニ及バシメザル理由必ズシモ當ヲ得タルモノト謂フヲ得ザルモノアリ
惟フニ滿鐵ハ一ノ資本會社タルト共ニ亦國家的機關トシテ國家ノ特別ノ保護ノ下ニ其ノ事業ヲ經營シツツアルモノナルガ故ニ一方ニ於テハ其ノ資本會社タル機能ヲ圓滑ニ發揮スルノ要アルト共ニ他方ニ於テハ國家ノ特別ノ保護ニ對シ相當ノ負擔ニ任ズベキモノナルコト之ヲ金融業ニ於ケル日本銀行ニ比スベキモノト認メラル此ノ見地ニ基キ滿鐵會社利益金ノ處分ハ大體日本銀行ノ例ニ倣ヒ資金ノ提供者タル株主ノ利益ヲ相當ニ考慮スルト共ニ

特別保護ノ附與者タル國家ノ利益ヲモ考慮シテ之ヲ決スルヲ適當トスベシ
 第二案ハ此ノ見界ニ基キタルモノナリ同案ニ於テ政府以外株主配當相當額
 ヲ年六分トセルハ民間配當保護ノ爲政府ノ配當ニ關スル現行ノ特例及日本
 銀行ノ事例ニ鑑ミ必要ト認メタルニ由ル尤モ同案ハ第二配當制度ニ關スル
 民間株主ノ既得權ヲ事實上制限スルモノナルモ右ハ既ニ命令書第十五條第
 二項ノ如キ制限アリ絶對的權利ニ非ザルノミナラズ正當ノ立法理由ニ基
 キ法律ニ代フベキ勅令ヲ以テ制限ヲ爲スモノニシテ蒙モ不當ニ非ザルモノ
 ト認メラル

□、委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金額ハ駐滿日本軍費用中幾何ヲ
 滿洲國ニ負擔セシムルヲ相當トスルヤノ見地ニ基キ毎年度決定セラレタル
 金額ヲ限度トシテ協定第十條ニ基ク納付金額算出ノ方法ニ準ジ之ヲ算出ス

ルヲ適當ト認ム即チ本納付金額ハ委託經營ニ因ル總收入ヨリ左記ノ順序ニ
 依リ控除シテ之ヲ算出スルモノトス

記

昭和八年度分

昭和九年度分以降

- | | |
|-----------|-------------|
| 1、營業費 | 1、營業費 |
| 2、新借款利子 | 2、新借款利子 |
| 3、既定納付金 | 3、前年度納付金 |
| 4、委託經營收得金 | 4、舊借款利子ノ約半額 |
| 5、舊借款利子 | 5、委託經營收得金 |
| 6、元金 | 6、納付金増額部分 |
| 7、過剩利益處分 | 7、舊借款利子ノ殘額 |

8、元 金

9、過剩利益

三、納付金歳入ノ所管

納付金歳入ノ所管ハ左ノ通りトスルヲ理論上正當トス但シ區分處理ヲ不便トスル

ニ於テハ總テ大藏省所管トスルヲ妨ゲズ

一、滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ハ拓務省所管

二、委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ハ陸軍省所管

說明

滿鐵固有勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付金ハ其ノ根據ヲ勅令ニ置クベキガ故

ニ主務省タル拓務省ノ所管トスベク委託經營勘定利益金ヲ以テ支辨スル納付

金ハ其ノ根據ヲ關東軍司令官ト滿洲國國務總理トノ協約ニ置クト解スベキガ
故ニ陸軍省所管トスルヲ理論的ト認ムルモ區分處理ヲ不便トスルニ於テハ一
括シテ大藏省ノ所管ニ屬セシムルヲ可トスベシ

四、納付年度

納付金ハ滿鐵當該年度決算（固有勘定及委託經營勘定共確定ノ日ノ屬スル年度ニ

納付スルモノトス

說明

納付金額ハ一定ノ標準ノ下ニ決算ニ依リ定マルモノナルヲ以テ之ヲ決算確定

ノ日ノ屬スル年度ニ納付セシムルヲ可トス

滿洲事件の後の關係

(参照)

○ 「協約」

七、八、七

第七條 第一條ノ管理（航空路ヲ除ク）ニ依リ生ズルコトアルベキ利益金ハ借款元
利定額ノ支拂ニ充テ其ノ剩餘ハ日本軍ニ於テ擔任スル國防並治安維持ノ費用ノ一
部ニ充當シ尙剩餘アルトキハ之ヲ滿洲國政府及滿鐵會社ニ於テ收得スルモノトス

○ 「協約」ノ諒解事項

七、八、七

第三條 協約第七條所載ノ利益金ノ處分ハ次ノ順序ニ依ル
新借款利子、舊借款利子ノ一部、日本軍ニ於テ擔任スル國防並治安維持ノ費用、
舊借款利子ノ殘額、借款元金定額、剩餘金
舊借款トハ四洮、洮昂、吉敦線ノ借款ヲ謂ヒ新借款トハ其ノ他ノ借款ヲ謂フ
年度毎ノ元利償還額並國防、治安維持ノ割當額ハ乙（關東軍司令官）ヨリ甲（

國務總理)ニ通知ス

○「協定」

七、四、一九

第十條 乙(滿鐵總裁)ハ別ニ協定スル金額ヲ日本政府ニ納入スルモノトス

○第十條ニ關スル協定

七、四、一九

第一條 乙ガ日本政府ニ納入スル金額ハ鐵道港灣河川ノ經營ニ依ル利益金(總收入ヨリ營業費及借款利子ヲ控除シタル殘額)並乙ガ鐵道港灣河川ノ委託經營ヲ受ケタルコトニ依リ利得シタリト認ムベキ利益金ヲ以テ支辨スルモノトス
前項前段ノ利益金ヨリ納入金ヲ支出シタル殘額ハ之ヲ借款未拂利子及借款元金ノ償還ニ充當シ尙殘額アルトキハ之ガ處分ニ關シ甲(關東軍司令官)乙間ニ於テ協

議決定スルモノトス

第二條 第一條ノ納入金額ハ當該年度毎ニ甲乙間ニ於テ協議ノ上決定スルモノトシ

第一年度第二年度協定額ヲ左記ノ通トス

左記

第一年度(昭和七年度)	ナシ
第二年度(昭和八年度)	七、〇〇〇

(單位千圓)

○「協定」ニ對スル拓務大臣許可條件

七、五、九

五、委託經營ノ利益金(總收入ヨリ營業費、新借款利子及舊借款利子ノ約半額ヲ控除シタル殘額)ノ約百分ノ五ヲ其ノ社ニ於テ收得スルコト

六、委託經營ニ依ル總收入ヨリ(1)營業費(2)新借款利子(3)舊借款利子ノ約半額(4)其

ノ社ノ委託經營收得金及(5)納入金ノ順序ニ依リ控除スルコト

七、第十條ニ關スル協定第一條括弧内ノ借款利子中四兆、洮昂及吉敦線ニ關スルモノハ其ノ社ノ納入金額ガ守備ノ爲滿洲國ニ駐割スル國軍費用中經常費ノ全額ヲ支辨シ得ルニ至ル迄其ノ支拂ヲ爲サザルモノトス但シ其ノ約半額ハ第三年度(昭和九年度)ヨリ之ヲ支拂フコト

其ノ社ノ委託經營收得金及舊借款利子ノ支拂ハ前年度納入金額ヲ低下セザルコトヲ條件トスルコト

八、過剩利益(委託經營利益金ヨリ納入金、其ノ社ノ委託經營收得金、借款元利金ヲ控除シタル殘額)ハ其ノ社及滿洲國政府ニ於テ收得スルコト

参照)

日本銀行納付金法

日本銀行ハ事業年度毎ニ純益金ヨリ左ニ掲グル金額ヲ控除シタル殘額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スベシ

- 一 拂込資本金額ニ對スル年六分ニ相當スル金額
 - 二 日本銀行條例第十條ノ規定ニ依リ積立ツベキ金額ノ最少額ニ相當スル金額
- 純益金ヨリ前項第一號及第二號ノ金額及前項ノ規定ニ依ル納付金額ヲ控除シタル殘額ガ拂込資本金額ニ對シ年四分ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ノ四分ノ三ヲ更ニ政府ニ納付スベシ

本法ニ依ル納付金額ハ所得稅法ニ依ル所得及營業收益稅法ニ依ル純益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

本法ニ依ル納付金ハ前事業年度分ヲ八月末日、後事業年度分ヲ翌年二月末日限政府

ニ納付スベシ

附則

本法ハ日本銀行昭和七年後事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治三十二年法律第五十六號ハ昭和七年七月一日限之ヲ廢止ス但シ同日前ノ發行稅

ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

日本銀行條例第十條中「十分ノ一」ヲ「二十分ノ一」ニ改ム

昭和八一〇二五

極秘

昭和九年度滿鐵納付金ニ就テ

昭和八年度中ノ滿鐵拂込資本ハ年度中途ニ於テ拂込ノアリタル關係上之ガ平均ハ

政府 二四四八六六八七一圓餘

民間 二三五七九七二六〇圓餘

トナル今此ノ拂込資本ヲ基礎トシ拓務省作製スル第二條ニ依リ之ヲ計算スルトキハ

第一 民間株主ノ拂込金（昭和九年度モ八年度ノ拂込額ト同様ト假定シ

テ）ニ對シ年八分ノ配當ヲ爲シ而モ二分丈ハ中間配當ヲ爲スモノトセバ

二分配當ニ要スル金額 四七一五九四五圓

中間配當ニ要スル資源 四七一五九四五

政府納付金追加額 四七一五九四五

計 一四一四七八三五

大藏省

附則

本債ハ總額納付金額時限ニ於テ其年度分 四一、四、廿八、三、五

明治三十四年度納付ニ要スル本債額和七圓五二五其四九五

二種シテハ其額ニ要スル金額 四一、一、五、六、四、五 圓

第一 民間株主ノ納付金(昭和大平度モ八年度拂込額ト同様ト假定シテ)ニ

對シ七分ノ配當ヲ爲シ而モ一分丈ハ中間配當ヲ爲スモノトセバ

一 分配當ニ要スル金額 二、三五七、九七二 圓

中間配當ニ要スル資源 二、三五七、九七二

政府納付金追加額 二、三五七、九七二

計 七、〇七三、九一七 圓

右計金額ノ二分ノ一 七、〇七三、九一七 圓 (原則的納付金額)

即チ此ノ場合ノ政府納付金額ハ四一、七、五、九、四、五 圓ト七、〇七三、九一七 圓ト

ノ合計額一、一、七、八、九、八、六、二 圓トナル

第二 民間株主拂込金(昭和九年度モ八年度拂込額ト同様ト假定シテ)ニ

對シ七分ノ配當ヲ爲シ而モ一分丈ハ中間配當ヲ爲スモノトセバ

一 分配當ニ要スル金額 二、三五七、九七二 圓

中間配當ニ要スル資源 二、三五七、九七二

政府納付金追加額 二、三五七、九七二

計 七、〇七三、九一七 圓

右計金額ノ二分ノ一 三、五三六、九五八 (原則的納付金額)

即チ此ノ場合ノ政府納付金額ハ二、三、五、七、九、七、二 圓ト三、五、三、六、九、五、八 圓ト

ノ合計額五、八、九、四、九、三、〇 圓トナル

右ハ何レモ政府拂込金額ニ對シテハ八年四分四厘三毛(昭和八年七月十五日

迄ハ四分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

蘇妹

昭和大平度モ八年度拂込額ト同様ト假定シテ)ニ

對シ七分ノ配當ヲ爲シ而モ一分丈ハ中間配當ヲ爲スモノトセバ

一 分配當ニ要スル金額 二、三五七、九七二 圓

中間配當ニ要スル資源 二、三五七、九七二

政府納付金追加額 二、三五七、九七二

計 七、〇七三、九一七 圓

右計金額ノ二分ノ一 三、五三六、九五八 (原則的納付金額)

即チ此ノ場合ノ政府納付金額ハ二、三、五、七、九、七、二 圓ト三、五、三、六、九、五、八 圓ト

ノ合計額五、八、九、四、九、三、〇 圓トナル

右ハ何レモ政府拂込金額ニ對シテハ八年四分四厘三毛(昭和八年七月十五日

迄ハ四分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

分三厘ノ割)此金額一〇、七、六、五、六、一、七 圓民間ノ拂込ニ對シテハ六年六

送ハ四代三厘、糖一此金騰一〇廿六正六一廿圓月間、糖及ニ權シテハ半六
 本林同、手廻利糖及金騰ニ權シテハ半四代四厘三手（甜味八半十月十五日
 合精騰五八式四式三〇圓イナ
 明キ此、糖合、廻利糖金騰ハ三三正廿六廿二圓イ三三三六式五八圓イ
 本精金騰、二代、一 三三三六式五八（取限内精金騰）
 精 〇廿三式一六
 廻利糖金騰 三三正廿六廿二
 中間糖當ニ要スル資騰 三三正廿六廿二
 一、代糖當ニ要スル金騰 三三正廿六廿二圓
 權シテハ、糖當ニ要スル而テ一、代支ハ中間糖當ニ要スル、イナハ
 第二、月間糖主糖及金（甜味八半）糖及糖イ同糖イ母安シマニ
 合精騰一、二、八、八、六、二、圓、イ、ナ
 糖及此、糖合、廻利糖金騰ハ四一、五、五、四、五、圓、イ、ナ、三、三、式、一、十、圓、イ
 本精金騰、二代、一、三、〇、三、三、式、一、十、圓、イ（取限内精金騰）

(利金騰 〇.5)

分此金額一四一四七、八三五圓ノ配當アリ且法定積立金ニ相當スル金額（純
 益金ノ二十分ノ一）アルコトヲ前提トシ計算シタルモノナルニ付滿鐵ノ純
 益金ハ少クトモ
 第一ニ依ルトキハ約 四一、一一七、一四四圓
 第二ニ依ルトキハ 三三、六七〇、九一三
 アルコトヲ要ス

(8.8 當井納)